

0 理念

2005年度以降に設定した目標

4. 学生への指導・相談体制の一層の充実を図る
5. 同窓教員との連携強化（研究会の主催・共催）

進捗状況報告

1. 高度な資質を持つ教員の養成
センターでは、単に全学に提供する「教職に関する科目」のカリキュラム運営だけでなく、学校ボランティア等への学生の参加の促進や、学生の自主的な活動である「勉強会」へのセンター教員による指導・助言、学生相談室における指導・助言などを継続的に実施して、教職への高い使命感を持った教員を送り出すように務めている。
 2. 教育委員会等との連携による共同研究の推進、学校教育の充実等への貢献
神戸市教育委員会との福祉に関する共同研究「福祉教育の共同教材研究・教材開発」を2004年度より3年間実施し、その成果報告書を2007年3月末に刊行した。また、兵庫県教育委員会の付託を受けて「英語教員集中研修」「県立高等学校10年研修者研修」を実施。その他兵庫県、神戸市、京都市、伊丹市、宝塚市などの教育委員会からの依頼による「スクールサポーター」「インターンシップ」等に学生を派遣。
 3. 教育的・学問的資質を有した博物館学芸員の育成
博物館学芸員担当副センター長のもと、現職の博物館学芸員で博物館学芸員課程の授業担当者の協力を得て、著名な美術館・博物館への実習を行い、高い資質を持った博物館学芸員の養成に努めている。2006年度は、28館へ60名の学生を派遣した。毎年50～60名の学生を30館前後に派遣しているが、センター教員による実習指導をより充実させ、「関学らしい学芸員」を育てるためにも大学博物館が早期に設置されることを期待している。
- 本センターの使命の一つとして、今後更に、より質の高い教員・学芸員養成に努めることがあるが、教職課程を専ら担当する5名の専任教員と博物館学芸員課程担当、学校図書館司書教諭課程担当の兼任教員2名という態勢では、現状維持が精一杯である。より一層の充実にはセンターに教員の増員は必至である。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

教育職員免許課程は、学部・学科等ごとに設置されるものであり、学部・学科の教育理念に基づきカリキュラムが編成されている。センターでは、各学部教務委員等からなる「教職教育研究センター評議会」を設けて、教職に関する科目等の全学開講科目等を各学部を提供するとともに、免許課程に係わる全学調整を行っている。

学内第三者評価

正課のカリキュラムだけでなく、ボランティア促進や自主的な勉強会の運営の支援など、教職への高い使命感をもった教員を養成しようという努力が評価できる。「1. 高度な資質を持つ教員の養成」については2005年度の「改善の具体的方策」に記された「各学部、研究科との連携を深める」という点についてはどのように進んでいるかの記述が必要である。

博物館学芸員についても、実習の充実が評価されるが、2005年度に記されている「実習オリエンテーションの充実」についてより一層の進展が望まれる。